

南芦屋浜地区小学校建設中止についての説明会議事録〔屋の部〕

日 時	平成27年4月6日（月） 14:00 ～ 15:30
場 所	芦屋浜センタービル3階大会議室
出 席 者	山中市長，岡本副市長，福岡教育長
司 会	米原企画部長
事 務 局	山城都市建設部参事，三井こども・健康部長，山口管理部長
参加者数	53人（住民：46人 議員：6人 記者：1人）

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

（市長）皆さま、こんにちは。今日は大変お忙しい中、また春休みの一番最後の日になり皆さまのご予定もありましたのに、今日の説明会にお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。

2月の意見交換会にも皆さまからご意見をいただき、また、一方で南芦屋浜に小学校を建設することにもご意見をいただきました。地域の皆さまの中にももちろん反対の方もおられましたし、小学校を待望される方もおられまして、大変私としても苦慮していたところです。

そのような中、3月25日、市議会議員21人のうち14人の有志の皆さまが、私に対して建設計画に対する白紙撤回をという申し入れをされまして、これは私も大変重く受けとめたところです。市長として、今まで何回も難しい判断を求められる場面がありましたが、最も厳しい判断でございました。それを受けまして教育委員会を開催し、記者会見等もさせていただき、今日の説明会に至ったわけです。

当然ご不満もあるでしょうし、小学校を待望されていた皆さまを失望させることになりまして、本当に申し訳ないと思っております。断腸の思いではございますが、この先は南芦屋浜地区をどういうまちにしていくかも含めて、シーサイド地区の皆さま、南芦屋浜地区の皆さまからもいろいろご意見をお聞きしながら、両方がウイン・ウインの関係でいくような形で行政を進めていきたいと思っておりますので、建設的なご意見を賜ればと思っております。

時間的には1時間半ですが、できるだけ多くの皆さま方からご意見を賜りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

(市民) 前回の意見交換会に来させていただきましたが、小学校を建設できますか、できませんかと聞いたときは、できますとおっしゃっていたのに、なぜこの短期間で覆ってしまったのか。理由が明確ではないので、その理由を教えていただきたいのと、また、同時に認定こども園もつくるということでしたが、こども園のほうはどうなったのか、そちらもお聞かせいただきたいです。

(市長) 南芦屋浜地区の意見交換会のときに、小学校をつくりますということで、その方向で行政も進めておりました。

その後の意見交換会の中で、住民の皆さまから建設についてかなり厳しいご意見をこの場で2回お聞きすることもありましたし、議員の皆さまからもいろんなご意見をいただきました。

決定的になりましたのは、市会議員の皆さまの3分の2に当たる議員さんの申入書です。非常に重い現在の民意と受け止めまして、議員の皆さまは市民の代表ですから、多くの市民の皆さまも反対であると認識しました。そして、建設を中止するのであれば、早く判断したほうが次の手を地域の皆さまも打てるのではないかという考えに至りまして、早くに判断をさせていただいたところです。

認定こども園については、用地も取得する方向ですし、進めていきたいと思っています。

(市民) 建設を中止した分の予算は何に使われる方向になるのでしょうか。

(市長) 小学校建設を進めるための予算は、最初から計上していませんので他へ使うことはありません。これまで、土地を取得するにはいくらかかり、建設したらいくらかかるというコストについては、目算を立ててご説明させていただきましたが、現実的には予算を計上していません。

(市民) 建設費用としてはいくらぐらいを考えていたのですか。

(市長) 建設費用は土地の取得含めて全部で70億円です。

(市民) 70億円もかからないと聞いたのですが。

(市長) 兵庫県企業庁から土地を全て買えば、上限額で70億円というご説明をさせていただきました。

(市民) 「14名の議員が市長へ建設の白紙撤回を求める申入書を提出」とあるんですけど、内容がわからないので、申入書の内容を公表してもらうことはできますか。

(市長) 申入書の要約を申し上げますと、小学校を新設しても10年後には単学級になる見込みがあり、既存小学校の学級数、児童数の減少を招くことがわかっている。その中で進めるのはどうかということで、計画の白紙撤回をされることを強く申し入れますという内容でした。

(市民) (※申入書に対しての意見) それは学校を建ててから今後、施設の用途をどうするか、どう使っていくかを考えたらいい話だと思います。ちゃんとした用途とビジョンを持っていれば問題はないと思うのですが、一方的にだめというのは納得いかないと思います。

(市民) 小学校建設をやめた理由は、財政的なことだけかと思っていたんですけども、10年後に人数が減って、その後の運用も考えてということを知りました。

ただ、潮芦屋にまだ空き地がたくさんありまして、これからお住まいになる方は恐らく若い世代が多いと思うんです。財政的な面で言いましても、小学校が近くにない、学校に行きにくいとなりますとますます宅地が売れなくなってしまって、直接それが市の財政に響く要因にもなると思います。

かといって、建ててしまえとなると今のような問題があつて、現状、浜風小学校が潮見小学校に比べて非常に人数が少ない、運用をどうしようかという問題になってくると思います。将来的なビジョンを考えて、例えば南芦屋浜地区のさらに南のほうの子どもたちに対してはスクールバスを出すとか、自転車通学を検討してみるとか、代替案について、今後のビジョンを今の時点でお持ちなのでしょうか。

(市長) 自転車通学は難しいとは思いますが、バス通学の可能性や子どもたちの通学路の安全性確保の面等、いろんなお考えがあると思いますし、地域、保護者の皆さまからのご要望もあるかと思しますので、早急に検討していきたいと思っております。

(市民) 小学校を建設されない場合に、土地の取得はするのでしょうか。また、取得するにせよしないにせよ、どのように利用されるつもりなののでしょうか。

(市長) もともと小学校施設用地として確保されているものですが、小学校が建設されなくなれば、どういう使い方があるか。土地の所有者である県の企業庁には小学校は建てませんとお答えしましたが、土地取得の権利までも要らないということにはなっていません。こちらの希望もある程度は聞いていただけるのかなという期待も込めています。

ただ、現在使用しているミズノとの契約が平成27年度末で切れる関係から、小学校建設についての判断を迫られていたわけなのですけども、小学校が建設されなくなると、いつまでも待って下さいというわけにはいかないと思いますので、南芦屋浜の地域、議会の皆さまのご意向も十分に考えて、どういう使い方があるのか、また取得金額についても皆さまのお声を聞いて進めていきたいと思っています。

(市民) 潮見小学校の子ども見守り隊なんかもやっております。

あの地域には公的な施設を建てないと、何もなし。潮見町の皆さまはご存じですけど、公的なもので、みんなが使える、コミュニケーションのとれるような場所がなければ。みんなが一緒になって会議をしたり何かをする場所、もちろん小学校もそうだろうし、幼稚園も保育園もそうだし、公的な施設が必要だと感じます。

このまま土地を放置するのはどうだろうかと思います。

(市長) 貴重な芦屋市内における空き地ですので、このまま返してしまうのはもったいないという気がします。しかしながら、相手もあることですので、何よりも地域の皆さまが何を望んでいるのか、

そう遠くない時期までに一定の方向性を一緒に考えていきたいと思っています。

何もないとおっしゃっておられますが、幸いにも潮芦屋交流センターがありますので、南芦屋浜地区の地域の皆さまが使いやすいような施設にしていくべきだと思っております。

(市民) 私も市民意見交換会にも参加させていただきましたが、なぜ撤回をしたかがはっきりしないです。

地方自治体の場合、議会において議員の4分の3が市長の不信任決議をすればいい。市長はあれだけ自信を持って言っていたわけだから、議会の3分の2が建設反対と言っても、議会から不信任決議があろうがなかろうが、自分は正しいのだということで堂々と最後まで自分の考えを通すべきではなかったのではないのでしょうか。3分の2の議員の方が言っただけだということで建設を中止したのは、それは住民に対して大変失礼だと思います。

議会の方も14名集まっているのですから、山中市長の不信任決議まで考えられたはずです。市議の4分の3ですから15人で、あと1人確保したら不信任決議可決です。議員の方は何でそこで勝負しなかったのでしょうか。そうすれば市民の中で小学校の建設のあり方が議論になっていったと思います。それが民主主義じゃないのでしょうか。突然ある議員さんにビラをまかれて、しかも中身も知らないという。ただ、市長は市会議員の申入があったから民意だとおっしゃいますが、おかしいと思います。全然市民をわかっていないと思います。

だから、市長も議会の方も堂々と市民の前でオープンにこの問題を議論してほしい。結局はこれで終わってしまったから、そこまで行かないのかもわかりませんが、率直な感想です。今後とも、ごみやパイプラインの問題とか、浜風幼稚園の跡地の認可承認とか、この地域はいろんな課題を抱えていますけど、真剣に議論してほしい。

(市長) 本会議、委員会等を通じて、それぞれの議員さんが賛成でないご意見をおっしゃっているのは承知しておりましたけども、議会から申入書の形で意見が出てくるとは正直思いませんでした。3月25日の段階でこうして3分の2の議員さんが印鑑押した形で持ってこられました。もちろん議決ほどの重みはありませんけども、それに準ずるような重みでして、本当に重く受けとめました。

堂々と勝負したらいいじゃないかということですが、堂々と勝負できない現実を見た以上、早く市民の皆さまに次の方向性を出さないといけないと感じました。議会の同意も得られないのに、いつまでも私が建設すると言い続け、結局はずっと先延ばしになり、最後には建設できないという結論になることが見えている以上、その方針を貫くわけにはいきませんでした。そういうこともご理解いただきたいと思います。

そして、市長、市会議員が改選されてからでもいいではないかということですが、そうするとやはり数か月遅れることとなります。時間を延ばしたところで結局はできないということより、土地所有者である企業庁にもある程度時間が限られているわけですから、早くに方針を打ち

出して、南芦屋浜地区の皆さまが次の手を考えて、こういう使い方があるんじゃないかとかいろんな案がこの数か月に出てくると思いますので、建設中止の判断をしたわけです。

(市民) 市長の今の結論はよくわかりました。私が聞いているのはその過程です。芦屋浜管理センターや潮芦屋交流センターの意見交換会では、小学校をつくれれば何十年後に3つの小学校とも小規模学校になり、場合によっては統廃合の心配もあるのではないかという声が出ましたね。あるいは、学校をつくる前にあゆみ橋の改善であるとか、スクールバスという方法もあるのではないかとか意見が出ましたね。

それから、どんな学校をつくるのかと言ったときに、教育委員会の幹部の方が、あそこの学校は英語教育をやって、校区は全芦屋区から集めるんだとまでおっしゃいましたよね。そこまで教育委員会が方向性を持っておられるのだったら、今、個々について、なぜそれは判断が間違っていたかを一つ一つ市民に説明する義務があります。ただ、議員の方の3分の2が建設反対であると来たからやめましたというのは、それは違うでしょう。

というのは、この問題が曖昧に終わってしまうということは、芦屋市政のごみやパイプラインの問題なり、浜風の後の問題なりを非常に危惧しているんです。芦屋市政も立派なことやっておられます。それは評価します。職員や幹部の方も立派な方がおられます。でも、最近はどうも市民置き去りの芦屋市政で、心配しています。だから、なぜこうなったかをちゃんと説明してもらわないとだめじゃないですか。

(市長) 南芦屋浜地区の小学校は、私も1つの夢を持っていましたけれども、議会が通らないと何もできないのも現実でして、それは正面から受けとめないといけないと思います。先ほど申しましたように、できないことがわかってもやるやると言って市民や地域の皆さまに淡い期待を持たせて、結局できないとなると、期待感は大きな失望に変わりますので、そこに至るまでに判断をさせていただきました。

(市民) 一番最初に聞きたいのは、分譲されるときにあそこは小学校予定地だと聞いていました。それで、入って7年たっても8年たっても小学校ができてない。よく集会所トークのときに、人口の関係で小学校をつくるのは難しいと聞いて、自治会でも人数が少ないから難しいのと違うかと思っていました。

そしたら突然建てますよとなり、決まったのかなと思ったら、議会で決まってないのに新聞発表されていますよね。そうしているうちに今度突然やめますよというのも、新聞発表で知ったのが事実です。

今日の話も、小学校そのものが必要であるとか必要でないとか、つくる意味の趣旨が何かぼやけているような気がしてね。結局学校に通う子どもの通学路が長いとか、あゆみ橋が要るとか、地域コミュニティとかで必要だということで検討されていたみたいですけど、私も内部の建設検討委員会の報告書を見ましたけど、本当に小学校が必要だという感じを受けなかったんです。だ

けど、住んだ人間としたら、学校をつくるということでやっているから、それで遅まきながらやったんかと。

ただ、これで納得できるのかなと思った途端に、議員の方もメリット、デメリット考えたらこれは難しいというのが本音として出てきてしまったというのが私の気持ちです。

ただ、それだけではなしに、小学校に通う子どものためには、小学校ができないのであればどうするかというのが、今日の時点で本当は話が出てこないとだめだと思います。

それから、土地をどう使うかというのは、市は企業庁に対して、小学校用地として何年も置いておいてもらって、ミズノの施設が今はありますがあれも仮設ですね。要は、本質的に都市計画そのものが最初から甘過ぎるのではないかという印象を受けています。

そして、建ててほしいけども、建てるデメリットを考えると、議員の方の言うことも一理あるなど思わざるを得ません。だけど、あの土地での小学校建設をやめましたって返すわけにもいかないから、後のことを考えて、どう使いますという代替案が出ないと誰も納得しないと思います。

それから、学校をつくるときの内部の委員会のメンバーを見ましたら、市で決めることですが、市の部長とかそういう方ばかりです。外部の人、住民の代表もいないし議員さんも入っていない建設委員会でやったからこういうことになったのではないかなということも、一言申し上げておきたいと思います。

(市長) 委員会のメンバーは、まず役所の内部でどうするかを決めるということで始まったものでありますので、ご理解いただきたいと思います。通学路の安全をどうしたらいいのか、あるいは予定地をどうしたらいいのかは、ぜひ皆さま方からも建設的なご意見をいただきたいと思っています。

(市民) 市長は、議会から反対をされたので小学校建設をやめられたとおっしゃいましたけれども、議会が反対したら説得するのが市長のお仕事ではないのでしょうか。

あと、市長は、今でも個人的な一芦屋市民としての感情としては、小学校はまだあったほうが良いと思っているのでしょうか。その2点をお聞かせください。

(市長) 必要かどうかは、必要と判断し、皆さまにも説明をしまいましたがけれども、現実的にできないという状況を目の当たりにすると、諦めざるを得ないというのが率直な気持ちです。

議事を説得したらいいじゃないかということですが、非常に重たい決断をされた議会の14人の皆さまですので、大変多くの市民の皆さまの声を背にした議員さんの声は大変重く厳しいものと受けとめております。

(市民) 南芦屋浜地区に小学校をつくるのは、平成26年12月の議会で議員の質問に答える形で初めて出たと聞いています。それが3月中には絶対に結論まで行かないといけなような強引な進め方をされた印象が強いです。それが結局3月の末には白紙撤回で、急転直下、何もなかったか

のように将来にわたっても一切つくらないという新聞記事を読みました。

しかし、南芦屋浜地区の住民の方の中にも賛成と反対が両方あったと思います。それがどの程度、どちらが多いのかなどアンケートをしてくださいという声がこの意見交換会でも教育委員会の中からも出ていたと思います。それも検討すると言われたけれどもされなかった。なぜそれだけ事を急いだのか。

私は、小学校を建てるという大きな問題をそれほど性急に、しかも意見が分かれているときに強引にやるものではないと思います。やり方として、地域の住民の合意ができるまで丁寧に行政として対応することが欠けてたのではないですか。それを抜きにして強引に進めるのは間違いです。

また、この撤回の仕方も、先ほどから言われていますように、14人の議員から出たからこれは将来も議会は通らないと判断された訳ですが。そんなことわからないじゃないですか。住民の皆さまがどう思っているかをなぜつかもうとしないのか。それをきちんと把握した上で、どのように合意形成していくのかを十分に行政の内部で、教育ということを議論した上で子どもの教育が一番大事だという、その立場の議論が余りにも欠けていたのではないかとも思います。教育委員会の中の議論も聞きましたが、そういう印象を受けました。

そもそもボタンの掛け違えのようなことで強行しようとされてきた。行き違いが市民の間で一層激しくなり、強い賛成、反対のように見えてきたのですが、本当によく子どものことを考えていればそうはならなかったと思うし、どこかで合意が形成できていったと思います。

そのもとには、浜風幼稚園で1万2千人分も署名が集まっても、余りにも強引に民意が退けられていった、公立が余りにも簡単に廃園にされていった不信感があったことも否定できないと思います。その中で今回の話が出てきて、やり方もまずかったと。その反省がすごく大事ではないかと思います。

ただ多数の議員が反対してきたからといって、将来までずっとそうなるか、それとも変わっていくか、これはやはり民意が決めていくことではないかと思うし、余りにも待っていたかのように、昨日申入書が提出されて今日撤回を発表するという印象も市民の方は感じていると思います。全てが余りにも唐突で、急な展開だったな、一体あれは何だったんだというのがみんなの思いだと思います。ですから、なぜなのかと皆さまが疑問に感じているのは当然だし、もっと丁寧な答弁をしていただきたいと思います。途中で言った疑問に答えられるものは答えてください。

(市長) はい。性急に判断したのはけしからんということですが、まさにそこは十分に反省しています。決定までに、もっと地域の皆さまのお声を十分にお聞きしながら進めていけばよかったと反省しています。

昨年、年度が替わって企業庁から、平成27年度末でミズノとの契約が切れるけれども、芦屋市としては小学校用地をどうするのかという最終的な判断を迫られた中で、早くその判断をしな

いといけない、年末あるいは年度末までに一定の方向性を出すということで進めてまいりまして、内部での検討会、そしてその判断が昨年の暮れから始まりまして、2月の意見交換会という流れになってきたわけです。時間がないことは言い訳にもなりません、地域や議会の皆さまともっと一緒に考える姿勢を持っておくべきだったと私は十分自分自身でも反省しているところです。

(市民) まず一番に、14名の芦屋市議の方にすごく不信感を持ちました。先ほどからいろいろお話しされている市長さんの心情はすごくわかります。

私が若葉町に引っ越しましたのは35年前です。それから35年間、すばらしい芦屋の地で3人の子どもたちを育てさせていただき、立派に成長しました。学校も小学校も幼稚園も中学校もあって、安全で安心な町でした。その当時はダイエーもすごい人で、スガキヤの食堂までありました。

今はどうですか。閑古鳥が鳴いています。買い物したくて行っても欲しいものもないんです。ところが南芦屋浜地区のマルハチはどうです。人でごった返しています。いつ行っても若い人たちやお年寄りでいっぱいなんです。南芦屋浜地区の若い子育て世帯に対して議員の方たちはどう思っているのでしょうか。若い世代を支援しないでどうするんですか。涼風町はまだ半分も入居してないと思います。

私の息子は芦屋で育てていただいて、芦屋をすごく気に入って、子どもたちを育てようと思って去年涼風町に引っ越してきました。小学校ができるから良かったねって言っていた矢先にこれでしょう。建設中止が決まった以上、新しく小学校をつくるというお話は出ないんですか。

涼風町には若いファミリーが引っ越ししてきている最中です。小学校建設に関する意見を何も言えていません。市議会の方は聞きに行かれましたか。今回の件に関して、息子たちは蚊帳の外だったんです。何も知らなかったんです。ある議員の方の号外が入って、私は初めて建設中止の記事を見たんです。子どもたちは喜んで引っ越してきたのに、何でこういうことになってしまったのだろうと。私たちも何も知らなかったんです。余りにも急激過ぎます。

(市民) 市長が行政の長として議員の方のご意見によって意見を翻された、これに関してはご説明いただいたかと思うんですけれども、教育長が小学校が必要であるというご意見だったのが、この資料に記載されている経過を見せていただきますと、「教育委員会第23回臨時会で建設中止の方向で意見一致」とまとめている。この辺の動きについてのご説明を願いたいと思います。

(教育長) 教育委員会の意思形成の過程と、なぜこういう判断になったかをお話ししたいと思います。

本来であれば分譲の計画とかまちができる状況にあわせて、小学校、幼稚園は建設されるべきものだと考えておりました。しかし、阪神・淡路大震災が起これ、南芦屋浜地区にまず復興住宅ができ、北のほうから家が建っていきました。これは皆さま方もご存じだと思います。

平成10年には、北側の子どもたちはあゆみ橋を渡って潮見小学校に通える形になりましたが、そのときはまだまだ子どもも少なかったわけです。当時の教育委員会は、震災で潰れた宮川小学

校を建て替えたり、山手小学校、岩園小学校の建て替え、ちょうど10年前の平成17年に精道小学校の建て替え等を行ってきました。

地域の皆さまからは、これまで小学校建設に関して様々なご意見をいただけてきました。そのような中で、潮見小学校、浜風小学校の子どもたちの数が減る状況になってきました。

しかし、教育委員会は企業庁から、南芦屋浜地区で予定されている小学校の土地をどうするんだと最終的な判断を求められました。その中で、教育委員5人で構成される教育委員会は、教育委員長のもとで勉強し、現地に行き、調べもしてきました。平成26年の4月から7月に教育委員会内部で人口推計であったり、現場に行ったりしました。涼風町の一番東に駐車場がありますが、直接そこから潮見小学校まで歩いてみたら、私の足で大体35分ぐらいかかりました。あゆみ橋を歩いている子どもたちは、朝7時55分から8時10分あたりに一斉に、現在400人ぐらい渡っています。あゆみ橋の北側はシーサイド地区の皆さまが毎朝立ってくださって、南側は南芦屋浜地区の皆さまが立つ、そういう状況でした。

これらを踏まえ、南芦屋浜地区に小学校は必要であり、どうやったら小学校をつくれるかという発想で進めてきました。教育委員会としては、平成26年8月18日に内部での結論を出そうと教育委員会を持ち、今日まで意思決定には至っていませんが、新設することは望ましいと考えました。これが1点です。

しかし、当地区の皆さまも心配されるように、潮見小学校はだんだん人が減り、南芦屋浜地区の人口推計も20年後等を見たら減ってしまうじゃないかという意見の中で、本来学校の設置は教育委員会が決定すべきものではありませんが、余りにも課題が大き過ぎることもあり、その土地の値段がいくらするかというアバウトな面はありますけども、教育委員会としては判断できないということで、市を挙げての検討委員会をお願いしました。

そうして市内部で8回にわたって議論し、平成26年11月に、検討委員会から市長へ、いろんな諸課題はあるけれども建設という方向での意見をいただいております。そこでも市長は最終判断はされていませんでした。

12月の議会や3月の議会での質問もありましたが、教育委員会も市長も建設は望ましいと考えているんだけど、地域の皆さまが非常に不安に思っておられると。今ここでご発言がありましたけども、いろんな意見をお聞きする中で最終判断すると。

そもそも教育委員会は3月を目途に判断しようとしていました。しかし、皆さまの不安が多い中で早急に判断してしまっただけではいけないということで、3月20日には答えを出さずに継続にしました。新設することは望ましいということの基本に置きながら、4月に意見を聞こうと。

そういう経過の中で、このたび市長が苦渋の決断をされました。苦渋の決断をされた中で、3月26日に市長からその話を聞いたわけですけども、市長からは早急に教育委員会も結論を出してくださいという依頼があったのが1点。

もう1つは、4月1日から教育委員会制度が変わりました。今までは教育委員長が教育委員会の代表としてやっていたのですが、4月からは教育委員長がなくなりまして、教育長が総理するという国の法律が変わりました。教育委員会としても、合議制は全く変わらないんですけども、そういうことで方向を示そうと、3月31日に急遽集まっていたいで方向性を決定しました。その方向性は、市長が今話しましたように、その苦渋の決断の中でのことを重たいものと置いて、5人の教育委員全員が断念せざるを得ないという結論に至ったわけです。

あと、今度4月10日に教育委員会がありますから、たとえ断念したとしても、今まで私たちが申し上げていた、建てなかった場合における問題点がありますから、そこは整理した形でこれから次の対応をしようと、そこで最終決定していこうとなりました。一連の経緯の中で教育委員会の流れと思いをとお答えさせていただきました。

(市民) 今、教育長のお話がありまして、結局20年前に震災があつて予定が全部狂ってしまったわけです。いろんな問題が出てきていますけれども、特にこの芦屋浜地区の問題。それも財源が一番もとになっている、財源が少ないからできないんだということがあつてと思うんです。今回に関しては、それは言えないと思うんです。限られた予算の中で何とか頑張ってくれ、これはわかりますけれども、この問題に関しては、本当に身近に問題を感じるのは子どもたち自身なんです。ですから、大人はとにかく子どもには負の負債といいますか、影響が出ないように、今後早急に対策を立てて、私たちに常にわかるように告知と説明をしていただきたいと思います。

(市長) ありがとうございます。行政も教育委員会もその方向で進めていきますが、地域や保護者の皆さまからもぜひ建設的ないろんなご意見をいただきたいと思います。

(市民) 将来にわたつてもう小学校をつくるのがないと断言したのは、今もそのお考えなんですか。市長はそこまで言う立場にはないのではないかと私は思います。今回は中途半端なままに撤回したと、多くの皆さまがそういう感情を持っているのではないかなと思います。期待していた人も、反対していた方も、やはり統廃合とかへの心配が大きかったと思います。ですから、1つは南芦屋浜地区の教育をどうこれから考えていくのかということ。

シーサイド地区についても、子どもの数が減ってくるのは全体的な問題ではありますが、皆さまが心配されている統廃合などの方向ではなく、一人一人の子どもたちに丁寧に教育ができる少人数学級の方角も含めて、やはりお金を惜しまないということでこれからのあり方を考えてもらいたいと思います。シーサイド地区の既存の2校についても、多くの皆さまがどういうことを望んでおられるのかを含めて十分に民意を酌み尽くし、これから時間をかけて住民や関係の方、教育委員会、行政、皆さまが子どもを中心に置いて、教育がどうあるべきかを十分協議していただき、その上で考えていただくことではないかなと思います。将来へのそうした方角づけを今決めつけてしまうことについては考え直したほうがいいのではないかなと思います。

(市長) 前段おっしゃっていることはまさにそのとおりであります。見出しではないですけども、

将来にわたって学校建設がもう永久にないという表現がありましたが、南芦屋浜地区に小学校を建てるのは現在が最終的なチャンスであったと思いますし、児童数が減っていく中において、今後何年かして建設という方向は、条件的にはかなり厳しくなるだろうという意味を込めて申し上げたものです。

(市民) 教育長、今のお答え、情けないと思いませんか。なくなったから皆さまから意見出してもらいますっていう段階じゃないでしょう。

逆に教育委員会としたら、小学校建設が中止になります、そうしたらかわりに歩いて35分かかる子どもたちをバスで通学させるとか。あゆみ橋が朝かなり混むなら、県と交渉して、潮風大橋、カメラをつける、フェンスで囲うというのも教育委員会の名前で県にお願いしたらどうですか。そういう動きも前にあったでしょう。以前に私が自治会長をやっているときにPTAの有志が来られました。教育委員会から県に申し入れたらどうですかと言ったら、これ全部立ち消えになっています。

ハッキリ言います。芦屋の教育委員会はやる気あるのかという気持ちがすごいあります。小学校を建設すると言ったのなら、絶対要るんですと14人の議員さんに何で教育長が頭を下げに行かないのですか。そもそも市長の顔潰してるんです。小学校を建設すると言ったのもフライングかもしれないですが、やめると言うのもフライングですよ。それで住民の意見聞きますと言って、いろんなこと言いますが、必死さが全然伝わらないです。その必死さがいいことで、結局議員の方14名が必要ないという話になってしまうのです。本音だと思いますよ。お金の面だけで考えたら、建設するのが難しいのは初めからわかっていたことと違いますか。もっと本気になって子どもたちのこと考えてください。

(市長) 本気で考えています。子どもの安全については、もちろん行政が責任を持ってやらないといけないんですけども、当然やります。だけど、またいろんなご意見が出てくるとしますので、決めるまでにはいろんなご意見をいただいて、最終的に決めたいと思います。

(市民) (※意見) 潮見小学校の子ども見守り隊をしている者です。この話とは別になるかもしれませんが、教育がだめなようなことを言っていますけど、潮見小学校は立派な小学校ですので、また、新しい小学校ができるできないはあっても、5年も6年も通わないといけない小学校です。僕たち見守りもしていますけど、まだまだ人手が足りません。涼風町の方も努力して、同じように子どもの見守りに立っていただいて、今からでもいいから、その子どもたちを僕たちの手で見守っていきたいと思います。

それと、潮見小学校はそんなに地域の悪いところじゃなくて、とても環境の良いところに建っていますので、とりあえず子どもの教育には良いと思います。あの地域にはぜひ公共の施設を建ててもらいたいと思っていますので、その地域の人は頑張って話を持ってください。でも、潮見小学校に通われる子どもを持つ人、南の人にも手伝っていただいて子どもの見守りをやっていきたいと

思いますので、協力よろしくをお願いします。

(市民) 市長がご意見を聞くとおっしゃているのですけども、いつごろ意見を聞いていただけるのでしょうか。

(市長) いつでも聞きます。それぞれ個人的でも結構ですし、何人が集まってきていただく、あるいは会に出てこいということであれば向かいます。私はそういう市民の皆さまとの対話をずっと就任以来重視してきたつもりですから、出ないとか逃げるとかはありません。

(市民) 私たちはこのような場に来ることができるのですけども、小さい子どもさんがいらっしゃる方とかは、来られないし、この場では言えない人とかもいっぱいいるので、アンケートではないですけれども、せめて幼小中に子どもが通っているお母さんらに意見を書けるような紙を配るとかしてあげられると、いろんな意見が出ると思うんですね。なかなかお母さんは勇気がないんで、対策を練っていただきたいです。

(市長) いろんな方法があると思いますので研究します。

(市民) 認定こども園についてですけど、先日の意見交換会でも南芦屋浜地区に認定こども園を希望される声がとても多くて、その中で、公立でお願いしたいという意見もたくさんあったように思います。そのお答えのときに、なるべく市のお金は使いたくないんだとおっしゃっていて、残念な気持ちになりました。

私は、娘が去年まで浜風幼稚園に通っていましたので、そこが廃園になることはとても残念に思っています。その後は認定こども園になるということですが、母親としては公立というだけで安心なんです。芦屋市が今まで公立の保育園や幼稚園で積み重ねてこられたことがお母さんたちの中では評判になって、公立はいいよということで安心感がすごくあります。なので、認定こども園を公立でと何回お願いしても民間事業者を誘致するとおっしゃるんですが、「教育のまちあしや」として、そこにはお金をかけていただいて、ぜひ公立で浜風幼稚園の後と南芦屋浜地区に認定こども園の設置をお願いしたいと思います。

(市長) ご要望として承っておきます。公立はなかなか難しいと考えております。

(市民) 認定こども園ができると聞いて、待機児童も多いと聞きますし、多分保護者の方の中にはそういう保育所とか認定こども園ができてほしいと望んでいらっしゃる方はたくさんいらっしゃると思います。

ただ、私が気になるのは、先ほどの方と一緒に、認定こども園が民間だということです。私は西宮の公立幼稚園で以前働いておまして、民間の幼稚園でもパートで働いたことがありますので、公立の幼稚園のことも私立の幼稚園のこともわかっているのですけれども、民間になると経営がかかってきますから、そのところも考えての保育になります。

それから、私立だと、経営者の方がかわると、それで保育方針だとかが変わることが多々あるのを目の当たりにしてきましたし、よく聞きます。公立だと、さっきの方が言われたように、今

までずっとやってきた歴史もありますし、職員の勉強会とかもきっちりされていますから、職員の質は高いと思います。いろんな年齢の方がおられますから、ベテランの先生が若い先生を育てることもきっちりできていると思いますし、私はすごく公立の良さがいいと思っています。なので、認定こども園を公立にということが難しいのであれば、公立幼稚園を存続できるように力を入れていただきたいと思います。

浜風幼稚園が廃園になったことはすごく残念なことで、もうそれは決まってしまったことですから覆らないけれども、朝日ヶ丘幼稚園も園児数が減ってきているから廃園になるんじゃないかということも聞きます。市の今までの方針を見てても、公立幼稚園を存続したいという思いが見えてこなくて、経費のこともあるし、できれば認定こども園を民間に委託していきたいという方向に持っていきたいんじゃないのかなと思ってしまうようなことも見えます。公立幼稚園の良さをもっともっと市民にアピールして、公立幼稚園が存続できるように。

認定こども園ができますと、今度は潮見幼稚園の存続が危機になってくると思います。3年保育は保護者にとっては魅力的ですし、公立幼稚園でも3年保育ができるように力を入れていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

(市長) 公立幼稚園あるいは公立保育に対する絶大な信頼感だと思います。本当にありがとうございます。

もちろん公立で運営していくに越したことはありませんが、子どもという全体的な大きな枠で捉えますと、限られた予算の中で、全体を通して考えていけないといけない場面もしばしばございますので、その辺もご理解いただきたいと思います。全体的な予算が増えず、社会保障費がどんどん右肩上がりが増えていく状況下でどうやって全体の予算をやりくりしていくかと迫られる中、全て公立を削っていくとは全く思っておりませんが、芦屋市だけではなくて全国の自治体が将来的には公立で物を建てていくのは難しい状況に迫られていることもぜひご理解いただきたいと思っております。

(市民) 将来を担っていく子どもですから、芦屋のためにも日本のためにも子どもは宝ですから、子どものために教育を一番に考えてしていただきたいと思います。

(市長) 全く同感です。

(市民) 芦屋市という小さなまちの中でたくさんの小学校と公立幼稚園があるのは、ほかの市から見てもとても恵まれた環境だと思っております。子どももそういった中で幼稚園、小学校、中学校と学ばせていただいて、本当に芦屋市のいい教育を受けさせていただいています。

ただ、すごく心配なのは、小学校が南芦屋浜地区にできなくなりまして、これからまだ少し住居が増え、子どもたちが多少増えていく中で、今のところまだ南芦屋浜地区の子どもたちは潮見小学校へ通うとなっていますけれども、将来的には数で言いますと潮見小学校がどんどん増えて、浜風小学校が減っていくのが現実だと思います。

そういったバランスを考えると、校区を見直していただけないかなと以前からずっと念願しております。浜風小学校校区といいますとなかなか新しくマンションが建つこともないですし、子どもたちの人数も減っていく中で、小学校を存続していただきたい気持ちもありますので、そういうことも考えていただきたいと思います。芦屋市の中では、岩園小学校がすごく人数が増えたりと、バランスから考えると、1つが少なく、1つが多いというのも、子どもたちにとってはやはりたくさんの中で勉強するのも大変だと思いますし、またそこら辺のバランスも少し考えていただきたいと思っております。

(教育長) 今ご指摘がありましたように、潮見小学校は子どもが増えていき、浜風小学校は急激に減ることはないんでしょうけども、バランスとして、潮見小学校に仮設を建てなければならないことも想定する中で、校区を全くさわらないのではなく、ご指摘のことも1つの検討材料と思っております。

(市民) 市長のお話の中では、議員の3分の2から反対があったからというのが一番大きな理由に聞こえて、外から見たら、結果だけ知らされる感じです。例えば議員の反対があってやめることになったのが理由とおっしゃっていたんですけども、どの点に一番納得してやめることになったのかをお聞かせいただきたい。

あと、認定こども園の話が出たのですけれども、こういう意見もあることをわかっていただきたくて述べるのですけれども、私は子どもを私立の保育園に入れてたんですが、決して私立が悪かったということはないので、そういう意見もあることを覚えておいていただきたいです。

公立だと年配の先生が多かったり、私立だと若い先生も多いと思うのですけれども、いろんな世代の先生と触れ合うことで、子どもとしても母親としても、年配の先生の場合はこういうふうにするべきという傾向がありますが、若い先生は若い先生なりに、お子さんいらっしゃらないなりに子どもに寄り添う最近の子育てを踏まえた上での教育を受けておられるんで、私立だから悪いということはないと思います。そもそも郵便局でも何でも民営化してますし、これからある程度時代の流れもあると思うんで、私立が一概に悪いとは言えないと思います。こういう意見もあります。

あと、私も小学校は賛成か反対かという、全く賛成、全く反対というのではなく、できればあってほしいというのがあります。というのは、私が引っ越ししてくる前の地域でも、仕事を引退されて声かけしてくれる見守り隊みたいな人がいましたが、私の娘はまだ保育園児なんですけれども、地域にいと、通っていくと地域の人が、何々と名前を呼びかけてくれるんですね。それが遠いところに行ってしまうと近所の人でもよくわからないという感じになるので、地域でのコミュニティをつくっていききたいというのがあるので、場所があそこがいいのかとか、そういう予算の面はともかくとして、地域の何かをつくっていただきたいです。

あと、人口が減るのは確実だと思います。あるデータを見たり、聞いた話では、芦屋市だけじ

やなくて、今、日本の女性がたとえ1人3人産んだとしても、確実に日本の人口が減るのはもう決まっているそうです。インドと中国しか人口は増えません。

ただ、前の意見交換会で出ましたけど、小学校としてだけ使うと考えると予算がもったいないとなると思いますが、小学校としてそこをつくったとしても、将来どうなるかわかりません。確実に高齢者は増えると思いますが、そこが高齢者と子どものコミュニティの場になるかもしれません。

確実に働く母は増えると思います。芦屋市は他市に比べると全体的に専業主婦世帯が多いと聞いたんですけども、これからは女性が働かないと日本は成り立っていかない時代が来ると思います。家を買うとなると共働きじゃないと厳しくなってくると思います。そうしたら教育施設用地に認定こども園が必要ですし、小学校の低学年のうちはできるだけ家から近いところに通ってほしいというのがあります。

あと、バスの話が出て、予算的に問題なければバスは安心なんですけれども、自転車通学は小学生ではできるだけやめてほしいというのは母親としてはあります。事故があつたりするかもしれないし、それこそそこで事故があつたら、あのとき小学校をつくってなかったからという意見がそのときになって出てくることもあると思います。

話が多岐にわたりましたが、やめるに関してはどの点に納得してやめることにしたのか。ただ単に立ち消えにせず、これからもこういう意見を聞く場を設けて、結果報告で、はい、やります、はい、やめます、意見を聞きますだけじゃなくて、皆さまの意見を聞いて、これからも完全にみんなの賛成、反対がはっきり分かれることはないと思いますが、意見を酌み取り答えを導き出す方向に持って行っていただけたらなと思っています。

(市長) そのとおりです。非常に反省しておりますが、どうしてやめようと思ったのかということでもありますけども、再三ご説明していますように、3分の2という民意を現実的なものとして受けとめたということです。もっとじっくり説得すればいいということでもありますけども、その間は数カ月遅れることによって予定地の議論が後回し、後回しになってくる、あるいは淡い期待を持っていた市民の皆さまをより落胆をさせることにもなるのではないかという判断をさせていただいたということです。

それから、私学に対する評価もしていただきましたが、公立のいいところ、私立のいいところそれぞれありますので、それはそれぞれだと思っております。

芦屋市は兵庫県の中でも2040年までに一番人口の減らない市ですが、それでも減っていくことは確実であります。まだ数年は微増でいきますけれども、2040年までは確実に減っていくという、日本全体がもちろん大きく減っていく中で、芦屋市はまだ減る度合いが少ないまちでもありますけれども、各地にそういうことが予測される中で、どういった行政を進めていくかということはやはり現実に突きつけられている使命、宿題だと思っております。そのことについて

もまたこうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかといういろんなご意見があるうかと思えますけども、皆さまと一緒に考えていきたいと思えますし、私も集会所トークだけでなく、こういう場を設定して、機会があればお話しを持っていきたいと思っております。

(市民) お答えは要りませんが、市会議員の皆さまの3分の2ですか、それイコール民意、民意とおっしゃいました。確かに市会議員の皆さまも市民全体から選んでおられます民意です。山中市長ご自身も芦屋市民から選ばれている民意なんです。だから、この市会議員さんが言ってきたからという、それを余り出すのは市長の権威が下がります。

(市民) 認定こども園について、公立か私立かはわからないけれども、つくるということに決まっているんでしょうか。

(副市長) 南芦屋浜地区には、市の考え方としましては、3,000㎡の土地を企業庁から買って、そこに民間の認定こども園を誘致していきたいという考え方を持っています。それをきちんと通すためには、議会に予算も通すこととなりますので。

(市民) それが今回問題になっております南芦屋浜地区小学校建設が中止になった場所、3,000㎡というのはその一部をお使いになるという予定だと。

(副市長) そうです。

(市民) 企業庁にその部分は使うよとご回答なさったということですか。

(副市長) はい。申しております。

(市民) 残りの部分はお返しするとか、使えませんよということになっているわけですか。

(副市長) そこは白紙の状態です。今後、企業庁と話も詰まりますし、地元のご意見もお伺いして行ってやっていくということです。

(市民) そこはご回答になっていないということですか。認定こども園ができるとなりますと、子どもの教育の場ができるわけで、残りの部分の使用方法は当然限定されますので、芦屋市が主導し、企業庁に物申して考えていかなければいけないところかと思えますので、そこを確認しておきたかったところです。

そして、市長がご意見を伺いたいということをお願いしております。教育長もそう言っていると思いますが、それをいつ言えればいいんですかという話もございました。そこが我々集まっている者の気になっているところかと思えます。どこで汲み上げていただけるのかというところが気になるので、そこを今後ともしっかりとやっていただいて、突然決まりましたにならないようお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

(市長) はい。十分気をつけてまいります。ありがとうございました。

(司会) それでは、本日の説明会につきましては、これで閉会とさせていただきます。多くの皆様方に御参加いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。本日はどうもありがとうございました。